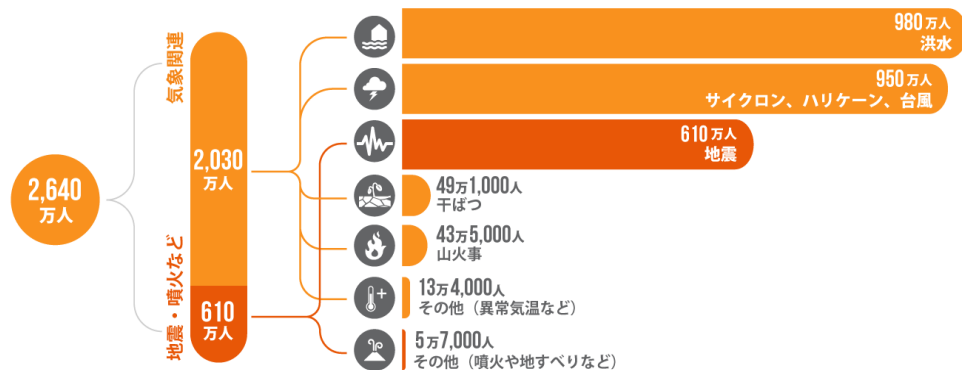




住み続けられるまちづくりを（火曜 1 クラス）

- ① 2030年までに、すべての人が、**住むのに十分に安全な家に、安い値段で住むことができ、基本的なサービスが使えるようにし、都市のまっずしい人びとが住む地域（スラム）の状況をよくする。**
- ② 2030年までに、女性や子ども、障害のある人、お年寄りなど、**弱い立場にある人びとが必要としていることを特によく考え、公共交通手段を広げるなどして、すべての人が、安い値段で、安全に、持続可能な交通手段が使えるようにする。**
- ③ 2030年までに、**だれも取り残さない持続可能なまちづくりをすすめる。すべての国で、だれもが参加できる形で持続可能なまちづくりを計画し実行できるような能力を高める。**
- ④ **世界の文化遺産や自然遺産を保護し、保っていくための努力を強化する。**
- ⑤ 2030年までに、まっずしい人びとや、特に弱い立場にある人びとを守ることを特に考えて、**水害などの災害によって命を失う人や被害をうける人の数を大きくへらす。**
- ⑥ 2030年までに、**大気（たいき）の質（しつ）やごみ（しり）の処理（ちり）などに特に注意（ちゆうい）をはらうなどして、都市（とし）にすむ人（ひと）（一人あたり）が環境（かんきよう）にあたえる影響（えいきよう）をへらす。**
- ⑦ 2030年までに、特に女性や子ども、お年寄りや障がいのある人などをふくめて、**安全（あんぜん）で使いやすい緑地（つか）や公共（りよう）の場所（ばしょ）をつかえるようにする。**

〈参考〉



2030年に自然災害によって国内避難民となった人の数は2,640万人にのぼります。